

CAT® CLUB

2025
NO. 127

COVER MODEL : Excavator 325



INDEX

100周年記念特集	02
From the World	08
Focus Machine	14
Team Caterpillar	15
Cat Financial	16
Good Support! Good Work!	17
持っていますか? この資格	18
100th Anniversary プレゼント	19

10 CUSTOMER REPORTS

お客様見聞録 >>> **File 28** 山本商事株式会社

“はじまりの地”からの挑戦

石を砕き、未来を創る。



Top Message

The Next 100 Years

Caterpillarがこの100年間にわたり成功を収めてこられたのは、従業員の努力と献身、お客様の変わらぬ信頼、そして販売会社やビジネスパートナーの支えの賜物です。この素晴らしいチームを率いることを誇りに思うとともに、Caterpillarがこれからの100年も、お客様とともに、より良く持続可能な世界を築いていけると確信しています。

Jim Umpleby

(Caterpillar Inc. 取締役会長兼最高経営責任者)

Caterpillarは、1963年に現在の三菱重工業株式会社との合併会社として日本で創業しました。

1987年に油圧ショベル事業を合併会社に統合するという決定は、油圧ショベル事業部の基盤を築くための重要な一歩でした。また、今年にはCaterpillarの明石キャンパスが65周年を迎えます。

明石キャンパスは、日本で初めて製造された油圧ショベルが生産された場所であり、当時生産された油圧ショベルの一台が現在も展示されています。

それ以来、明石キャンパスは、今日私たちが知っている

現代の油圧ショベルの技術の進歩において重要な役割を果たしてきました。

Caterpillarの成功は、誠実さ、エクセレンス、チームワーク、コミットメント、持続可能性という当社のコアバリューを基盤としています。

これらの原則は、私たちをチャレンジと勝利へと導き、

過去100年間で目覚ましいマイルストーンを達成することを可能にし、次の100年もビジネスとして、そしてチームとして私たちを導き続けます。

最初の製品の発売から最新のテクノロジーと顧客ソリューションまで、私たちは常に可能性の限界を押し広げてきました。

そして、こういった私たちの成果は優れたグローバルチームの実力を反映しています。

次の100年は、私たちの業界、お客様、そして世界が進化するにつれて、無限の可能性を秘めています。

私たちは共に、お客様がより良く、より持続可能な世界を築くための最善のソリューションを提供しながら、リードし、インスピレーションを世界に与え続けると確信しています。

豊浦信海

(キャタピラージャパン合同会社 代表執行役員)



100
YEARS

キャタピラー100年の歩み

1890年代、前身となるベンジャミン・ホルトのHolt Manufacturing Company(ホルト社)と
 ダニエル・ベストのBest Manufacturing Company(ベスト社)により農機具メーカーとして
 設立されたのち、1925年、この2社が合併して、キャタピラー社が誕生しました。
 誕生してから今日まで、キャタピラー社100年の歴史についてご紹介します。

HISTORY 1 キャタピラーの創業期

1886年

カリフォルニア州ストックトンで、
 ベンジャミン・ホルトがコンパイン
 ハーベスタの第1号機を製造



1891年

13歳のC.L. ベストが、父ダニエル・
 ベストの会社で働き始める



1904 - 1905年

ベンジャミン・ホルトは、初めての
 の履帯式ブルドーザを発明。
 それが社名であるキャタピラー
 の起源となった



1925年

ホルト社とベスト社が合併し、
 キャタピラー・トラクタ社が誕生



HISTORY 2 躍進するキャタピラー

1931年

業界初の実用モータグ
 レーダ、Auto Patrolを
 販売開始



1937年

キャタピラー・トラクタ社製機械がゴールデン
 ゲートブリッジの完成に貢献(P2、P7写真参照)



1944年

キャタピラー・トラクタ
 社製機械が、全米の7万
 マイルに及ぶハイウェイ
 の建設開始に貢献

1950年

海外子会社第1号をイングランドに設立

1959年

キャタピラー・トラクタ社製初のホイール
 ローダである944を発表。当初は、Wheel
 type Traxcavatorという名称だった

1962年

第1号ダンプトラック769を販売開始

1967年

イリノイ州ピオリアに
 グローバル本社ビル
 を新設



1969年

キャタピラー・トラクタ社製エンジン
 が月へ向かうアポロ11号計画で電
 力を供給



1972年

第1号油圧ショベル225を販売開始

1986年

社名をキャタピラー・トラクタ社からCaterpillar
 Inc.(キャタピラー社)に変更

1994年

キャタピラー社製機械が、日本の大阪の関西国際
 空港建設に使用される

1998年

世界最大の機械駆動式の鉱業用トラック797を
 販売開始

1800

1900

1930

1940

1950

1960

1970

HISTORY 3 キャタピラーの日本上陸

1960年

現三菱重工業株式会社・明石製作所が油圧ショベルを初めて国産
 化。コンボY35が油圧ショベルの代名詞となる



設立当時の明石工場全景



現在も明石キャンパスに展示されている一台

1963年

キャタピラー社と現三菱重工業株式会社が出資し、キャタピラー三菱
 株式会社が誕生

1979年

アジア最大規模のデモンス
 トレーションセンターを秩父市
 に開設

※現在のD-Tech Center



マシンの色は1930年までグレーと
 赤が使用されていたが、その後、安
 全のため昼も夜も遠くからマシンが
 よく見えるようにHi-Way Yellow
 (黄色)が採用された。



1925

1931

1932

1939

1941

1957

— ロゴの変遷 —

CATERPILLAR

Caterpillar

Caterpillar

Caterpillar

Caterpillar

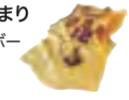
CATERPILLAR

Caterpillar Sponsorships

キャタピラーは長年にわたり、スポンサーシップ活動を通して精神や価値観、パッションを共有できる企業や団体と手を組み、交流することにも注力しています。その一部をご紹介します。

1952年 スポンサーシップの始まり

キャタピラー・ディーゼルのバスケットボール選手がオリンピックで金メダルを獲得



1992年 Catレーシング

NASCAR®のスポンサーシップを開始
※全米自動車競争協会



1997年 Cat Ladies ゴルフトーナメント

JLPGA®のスポンサーシップを開始
※日本女子プロゴルフ協会



2018年 CBA

CBA®のスポンサーシップを開始
※中国バスケットボール協会



2022年 MLS

MLS®のスポンサーシップを開始
※北米メジャーリーグサッカー



2001 - 2003年

クリーン・ディーゼルエンジンACERT®テクノロジーを導入。米国環境保護局(EPA)の基準に適合する最初のエンジンメーカーとなる



2008年

第1号電動ブルドーザD7Eを発表



2012年

イリノイ州ピオリアにキャタピラービジターセンターを開設



2018年

世界初のハイドライブ型電動ブルドーザD6 XEを初披露

2021年

キャタピラー初のダイバーシティ&インクルージョンレポート「全員の力 - より良い世界の創造」を発表



2022年

グローバル本社をイリノイ州からテキサス州へ移転

2025
創立100周年を迎える

100
YEARS

1986年

明石市に油圧ショベル設計センター(現・油圧ショベル開発本部)を設立

1987年

新キャタピラー三菱株式会社へ社名変更

2008年

キャタピラー・ジャパン株式会社へ社名変更
※2017年キャタピラー・ジャパン合同会社

2012年

キャタピラー・ジャパンがCaterpillarの100%子会社になる

2017年

デジタル接続を標準搭載した業界初の次世代油圧ショベルを明石より出荷開始

2018年

油圧ショベル320がグッドデザイン賞受賞



女性研究者の育成・支援をする「キャタピラーSTEM賞」を創設

キャタピラーの
WEBサイトはこちら!



1967

CATERPILLAR

CATERPILLAR®

Caterpillar in Japan

日本におけるキャタピラーの歴史は1963年に始まり、60年以上の歴史があります。

これからも、一層喜ばれるサービスを全国の皆様にお届けします。

キャタピラー・ジャパン合同会社

横浜事務所

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1
TEL 045-682-3800

明石事業所

油圧ショベル開発本部

〒674-0074 兵庫県明石市魚住町清水1106-4
TEL 078-943-2111

キャタピラー・ファイナンス株式会社

本社

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1
TEL 045-682-3700

ソーラータービズ・サービス・カンパニー

日本支社

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1
TEL 045-682-3790

<販売会社>

日本キャタピラーグループ

日本キャタピラー合同会社 本社
〒100-0011 東京都千代田区幸町1-2-2 日比谷ダイビル
TEL 03-5251-9555

キャタピラー教習所株式会社 本社
〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮7-11-1-2階
TEL 0467-73-1221

東京レンタル株式会社 本社オフィス
〒226-0013 神奈川県横浜市緑区寺山町745-45 横浜営業所内
TEL 045-938-5771

四国機器株式会社 本社
〒760-8518 香川県高松市観光通2-2-15
TEL 087-836-0355

四国建販株式会社 本社
〒791-0054 愛媛県松山市空港通6-10-1
TEL 089-972-1481

キャタピラー九州株式会社 本社
〒818-0081 福岡県筑紫野市針摺東3-6-1
TEL 092-924-1211

CKレンタル株式会社 本社
〒818-008 福岡県筑紫野市針摺東3-6-1
TEL 092-923-6851



キャタピラー・ジャパン 横浜事務所



キャタピラー・ジャパン 明石事業所および油圧ショベル開発本部

From the World Sudan

Atlantic
Ocean

スーダン

大規模な農業プロジェクトが 広大な砂漠を緑に変える

スーダンの砂漠地帯を耕作地に変える農業プロジェクトで
キャピラーのチームも重要な役割を果たしている。
数十台のCatマシンが稼働中だという現場の裏側に迫った。

スーダン北東部のヌビア砂漠。一見、農業には不向きと思われるこの土地で、大規模な農業プロジェクトであるProject Greenが動き出している。アブダビのRoyal Groupとスーダン最大の企業グループDAL Groupの合併企業であるAgriculture Investment Holding Company (Ethmar)社が、2億2,500万ドルを投じ、ヌビア砂漠を耕作可能な農地に変える大事業だ。

完成時には総面積42万エーカー(約17万ヘクタール)に及ぶこのプロジェクトは、まず13万エーカー(約5.2万ヘクタール)の第一期工事を終えると、120エーカー(約48ヘクタール)ずつの円形500区画に分けられ、小麦やグレープフルーツなどの作物を栽培する予定である。プロジェクト開始からわずか1年で、

すでに50区画が稼働を始めており、その進捗は驚くほど早いペースで進んでいる。

「確かに、ここは砂漠です。しかし、私たちはこの地を緑豊かな場所に変えようとしています」とDAL Groupの会長Osama Daoud Abdellatif氏は語る。「プロジェクト付近はナイル川や多くの河川に恵まれ、雨も降り、地下水も豊富にあります。国土は世界でも有数の平坦さで、砂の下には良質な土壌が眠っています。つまり、必要な条件は全て整っているので、それほど難しい計画ではありません。あとは、この土地を緑豊かに育てるだけです」

このプロジェクトを成功に導く鍵は、灌漑にある。その仕組みは、アルワハとアブハマドの農場において、わずか10km先のナイル川から水を引き、18kmの用水路を通じて農地に

水を供給するというものだ。「この地域は過酷な環境で、砂嵐も頻繁に発生します。しかし、灌漑さえうまくいけば農業も成功するでしょう」と、Ethmar Agriculture Investment社のNazim Khalil CEOは話す。

アブハマドでは夏季の気温が48度にも達することもあり、日中はあっという間に水が干上がってしまい、灌漑は困難を極める。しかしDAL Groupは、このような環境下でプロジェクトを実現するための十分な資金力とノウハウを備えた、数少ない企業の一つである。

DAL Groupは、創業者であるDaoud氏の父親が1960年代にキャピラーのトラクタ販売から事業をスタートさせたことに端を発する。現在も、その原点とのつながりは色濃く残されており、子会社のSUTRAC社(スー

用水路を通じてナイル川から引き込んだ水が40万エーカーを超える広大な砂漠を耕作地に変える



SUTRAC社のジェネラルマネジャー、Yasir Elhajj氏は「当初、我々は初期インフラ構築支援のためにマシンをレンタルするだけでした」と説明する。「しかしプロジェクトが進み、実際に用水路の建設を行うことで、我々の豊富な経験がプロジェクトに大きな価値をもたらせることに気づいたのです。そこで、プロジェクトに対応すべく、レンタル部門内に新たな土木・建設セクションを設立しました。今では、現場で60台のCatマシンが稼働しています」

これだけ多くの機械を現場に搬入することは、それ自体が大きな課題にも思えるが、Yasir氏の見方は異なる。「もちろん多くの障壁に直面しましたが、キャピラーのチームと密に連携し、事前に計画を立てることで、すべてを乗り越えてきました」。このような大規模なプロジェクトに携わることは、Yasir氏にとって、当然ながら大きな誇りでもある。「これはSUTRAC社とDAL Groupにとって重要なプロジェクトであるだけでなく、スーダンの人々にとっても重要なものです。完成すれば、Project Greenはこの地域で5,000人の新たな雇用を創出すると見込まれています」

かつては広大な耕作地と豊富な水資源を誇り、世界的な穀倉地帯として知られた

スーダンは、近年、海外からの投資が不足し、苦境に立たされてきた。しかし、DAL Groupの参入で状況は変わりつつある。「農業は、単に原材料を生産するだけでなく、製造業を含むあらゆる関連プロセスに価値を付加する産業であるべきです。また、農業は畜産業とも統合されるべきだと考えています」と、Daoud氏は話す。

国連食糧農業機関(FAO)によると、スーダンの農業部門は国内総生産(GDP)の約3分の1を占め、労働人口の約3分の2の生計を支えている。しかし、耕作可能な土地のうち使用されているのはわずか3分の1にすぎない。Daoud氏は次のように話す。「スーダンほど利用可能な土地が豊富な国は、世界中探してもなかなかありません。スーダンは本質的に農業国です。ここでは農業こそが未来なのです」

Project Greenのような取り組みが進行している今、スーダンの農業は明るい未来に向かって大きく踏み出そうとしている。

キャピラーが紹介する
カスタマーストーリーはこちら。





“はじまりの地”からの挑戦

石を砕き、未来を創る。

「総合技術で新時代を創る」を合言葉に、多彩な事業を手掛ける山本商事様。長年にわたり同社を支えるのが、地元・奈良県御所市の砕石場での生産です。関西の建設業と地域経済に貢献する同社の、成長力の源を取材しました。



地元で掘り当てた理想の砕石場が、成長への転機に求める大型機械は総合力でキャタピラーを選択

著名な史跡や神社仏閣を数多く有する奈良県で、国内有数の参拝者数を誇るのが橿原神宮です。「日本書紀」において初代の神武天皇が即位したとされる“日本のはじまりの地”に、神武天皇とその皇后をまつっています。

橿原神宮が特徴的なのは、鳥居をくぐると外拝殿や本殿まで途切れることなく続く「砂利」の道。約53万㎡の広大な神域の至るところに玉砂利が敷き詰められ、一步一步踏みしめるごとに心地良い感触と、心が洗われる気持ちになります。

境内の砂利に貢献している地元企業が、神宮のある橿原市の隣、御所市に本社を置く山本商事様です。2022年に「ぜひ地元産の高品質な砂利を使ってほしい」と自社の砂利約7,000トン奉納し、さらに建設機械を使って整備まで行いました。

現在では砕石から砂利などの製造までを自社で全て手掛ける同社の歴史は、半世紀前にさかのぼります。2014年に二代目社長に就任した代表取締役の山本譲二様にご説明いただきました。

「当社は1971年に私の父（現会長の健二様）が、建材と産業廃棄物の運送を請け負う二本柱で創業しました。転機は16年後、京都府で砂利採取を始めてからです。1993年には、地元で購入した山が良質の硬質花崗岩に恵まれていることが判明し、砕石プラントを増設して今に至ります」

それから30年余り。京奈和砕石場では、年間最大300万トンの砕石・砕砂を生産。リサイクルをはじめとする多様な事業を展開し、グループ企業が増えた今も、砕石は事業の中核を担っています。

「私にとって、この砕石場は子どもの頃から慣れ親しんだ場所。休日には父と一緒に訪れ、母親手作りの弁当を頂上で食べたことを覚えています」と語り、油圧ショベルのシートにも乗せてもらったそうです。山が切りひらかれていくのと歩みを合わせるように少年も成長し、やがて山本商事に入社。機械の動かし方や現場のイロハを学んだ、山本様にとって“はじまりの地”でもあります。

砕石の現場で活躍するのは大型の建設機械。油圧ショベルやブルドーザーには、パワーが求められています。「キャタピラーの機械の良いところは、パワーと重厚感です。同じクラスの機械でも運転している時の安定感が違い、



キビキビした動きを見せるCat 962。掘削時のタイヤスリップも低減し、生産性がアップしました。

安心してきます」と山本様。

以前はさまざまなメーカーの機械を試していましたが、買い替えのたびにキャタピラーに変わり、現在は砕石場や処分場などで60台ほどのCatマシンが稼働しています。

「キャタピラーの機械は見た目もカッコいいですけど、私はそこにこだわりません。作業性、イニシャルやランニングのコスト、アフターサービスなどの総合的な判断で、高く評価しています」

良質なコンクリート材を生む最新鋭プラント
安定した作業でCat 395が早くも活躍

本社から約3km南東の御所市内にある京奈和砕石場。奈良県でもトップクラスの規模と設備を誇り、さまざまなサイズや規格の砕石を製造しています。特に、2基のラインで生産される「ガリバー砂」は良質なコンクリートの材料として、国土交通省や奈良県から公共工事での使用を推奨されています。

砕石場を訪れて目に入るのは、大規模な最新鋭のプラントと生産された何種類もの砂。砕石プラントは、山本商事様が独自に開発したシステムで、人や車両の出入りや作業が効率的になるよう、リアルタイムで管理・制御され、少数精鋭で安全稼働に努めています。

超大型のダンプトレーラーが戻ってくる、最新鋭のホイールローダCat 962が砂の山から次々とガリバー砂を積み込んでいきます。バケットいっぱい砂がスムーズに運ばれ、28トンの積載量を誇る同社のダンプトレーラーはすぐに満載。休む間もなく、コンクリート工場や建設現場へと向かいます。

そして、プラントの向こうにそびえる山が、砕石の最前線となる現場。赤みを帯びた土に岩盤がむき出しとなっています。ここで活躍する油圧ショベルが、購入してまだ1ヵ月に満たない最新機種種の395です。砕石技術開発事業部の部長で工場長を兼務する山岡裕治様がオペレータとして自ら乗り込まれ、岩盤を割ってダンプに積み込む作業の様子を見せていただきました。

大きな岩もある地面を掘削した土砂は、395の隣につけたダンプトラック770に運ばれます。取材当日は雪が吹き付けて現場の過酷さを際立たせる中、山岡様は落ち着いた表情で作業されています。

作業を終えた395に近づいてみると、岩に直接当たるバケットの底面やチップ周辺が補強されているのがわかります。それでも摩耗は激しく、他の現場に比べてオプション部分を交換する頻度は多いと山岡様は語ります。「うちの会社は社長も機械が好きだから、働く人が快適に乗れる機械を選んでくれますね。人が無理するのやなく、機械に無理してもらってます」



上) 1時間に500トンの砕石や砕砂を生産できる京奈和砕石場のプラント。
右下) Cat 395のバケットは砕石向けに補強。
左ページ左下) 砕石場内では770の小回りの良さや走破性が発揮されます。

石の橋を徹底的に叩くように ビジネスも入念な準備が肝要



持ち上げた際にバケット内が荷崩れしにくくなったCat 395.770と抜群の連携を披露しました。



山本商事株式会社
 代表者：山本 譲二
 本社所在地：奈良県御所市城山台587-3
 設立：1985年
 従業員数：141名
 事業内容：各種砕石の製造販売業、産業廃棄物処理業、新電力事業、新エネルギー事業他
 グループ売上高：120億円(2024年度)
<https://www.yamamoto-group.co.jp/>

どれだけ優れた機械もアフターサービスは不可欠 メンテナンスはプロに任せ、自社の弱みをなくしていく

山本商事様の本社にて、建設機械へのこだわりを山本様に聞いてみました。同社では土砂などの大量輸送に適した大型ダンプトレーラーをメーカーと共同で設計開発するなど、さまざまな機械類に対してもチャレンジを続けています。

ずっとCat製品を選んでいただいている理由をあえて1つに絞った答えは「アフターサービス」。「どんなに素晴らしい機械でも、アフターがしっかりしていないところからは絶対に買いません。キャタピラーさんが優れているのは、サービスのスピード感でしょうね」と続けます。

「機械のメンテナンスに関しても、日常の点検以外はお任せしています。プロにやってもらった方が早いですし、従業員はその間に他の作業に専念できるので、コストや生産性の面でも有利です」

今では新エネルギーや飲料水・化粧品等の製造販売まで事業を拡大している山本商事グループですが、「会社を大きくしようということよりも、自社にとって弱い部分の一つずつ潰していくように考えています」と山本様。太陽光発電の事業も、自社の遊休地を活用するアイデアと当時のエネルギー政策が一致したと聞けば、納得できます。

太陽光パネルを清掃する水のために、自社の敷地で井戸を掘っていた

ら、出てきたのが温泉。化粧品や水のビジネスにつながりました。砕石場を始めたきっかけと云い、一見すると幸運に思えますが、それを確実にビジネスへとつなげられるのは、つねに山本様の頭の中では複数の事業のアイデアを考えているから。時流やタイミングを見極めて、慎重に実行へと移します。

「転ばぬ先の杖の、さらに少しその先。念には念の、さらに念を入れたい」と、山本様は自身の性格を語ります。長年にわたって石を叩き続けてきた同社が、石橋を渡った先の未来には、どんなビジネスが生まれるのでしょうか。150年分の資源を有する砕石場の事業や、今後本格的に展開するリサイクル事業はもちろん、新しいアイデアに対しても、キャタピラーは信頼される製品とサービスで応援していきます。



新しいマシンについて話し込む(左から)川島部サールス(日本キャタピラー)、山岡様、北松サールス(日本キャタピラー)、建材・環境グループ副部長の三村雅通様。

Yamamoto Shoji × Cat Product Cat 395

パワーを向上させながら、求めていたバランスも両立。



「従来機から明らかにパワーアップ。キャタピラーならではのバランスが作業の安全性を向上させていて、乗りやすい機械に仕上がっています」

砕石技術開発事業部 部長 山岡裕治 様

山本商事様の京奈和砕石場は、390F Lからの入れ替えて、2台の大型油圧ショベル395を2024年末に導入。過酷な砕石の現場で早くも本領を発揮しています。旋回ポンプの独立化による旋回やバケット開閉などのスピードアップは、山岡様も実感。「パワーアップしている分、掘削時の力加減も違います」と評されていました。

オペレータとしても40年以上の経験を持つ山岡様が機械で大事だと思うのが、「安全性とバランス」。砕石場は足場が不安定な場合もあり、原石を積んで旋回した時には横転のリスクを伴います。キャタピラーの油圧ショベルの特長について「力をかけた時に前後の重量のバランスが良いから、変に浮いたりしない」と話され、395も生産性の向上とバランスを両立しているとのこと評価をいただきました。

今後は、掘削量や積み込み量を記録するCatペイロード計量システムも活用される意向。最新テクノロジーが現場の生産管理と効率化に貢献します。

Cat 395の最新機能



CAT PAYLOAD機能で、オペレータは車両で計量を行えるため、目標積載質量まで積み込むことができ、過積載や過少積載を防止します。オプションのAdvanced PAYLOADは、カスタムタグ、日次合計、電子チケット発行などの拡張機能を提供するシステムアップグレードです。PAYLOADとVisionLink[®] Productivityを組み合わせて、現場と個々の資産を分析し、生産目標と主要な指標をリモートで管理します。



優れた狭隘地作業性能と高い安定性を両立したマシンで、用途に応じて選べるラインナップをご用意しています。

	標準仕様	解体仕様
運転質量	24,220 kg	24,670 kg
バケット容量	0.8 m ³	
定格出力	128.5 kW	

活躍の場を選ばない 油圧ショベルCat® 325 汎用小旋回機

優れた狭隘地作業性能

小さな後端旋回半径

0.5m³クラスのCat 313油圧ショベルの後端旋回半径2,190mmよりも小さく、従来モデルの320 ERRとほぼ同等で、足回りの長さ内で旋回ができる優れた小回り性能を有しています。



法面や壁面脇でも安全に作業

足回りからの旋回時はみ出し量が小さく、カウンタウエイト部分は六分勾配(59度)法面の脇でも旋回が可能。狭い現場でも効率よく、安全に作業ができます。 ※キャブコーナー部は八分勾配で旋回可能

はみ出し量

STD足
775mm
LC足
685mm



6分勾配[59度]

はみ出し量

STD足
630mm
LC足
540mm

高い安定性

優れた安定性により、小割機や大割機等の大重量アタッチメントの作業にも対応可能となっています。アタッチメント装着可能質量は標準足回りで2,740kg、ロング足回りの場合は3,080kg(標準仕様)

	標準足回り	ロング足回り
アタッチメント装着可能質量	2,710 kg	3,050 kg
解体仕様	(丸吊り仕様2,650kg)	(丸吊り仕様2,990kg)
標準仕様	2,740 kg	3,080 kg

解体作業効率の向上

解体仕様は解体用バケットシリンダ/バケットリンケージ、強化型ブームを備えており、過酷な解体作業に対応可能な堅牢性を有しています。また、本体丸吊り(4点吊り)が可能なアイ*や、FOGSガード*をオプションでご利用しており、効率よく、安全に解体作業が行えます。



※丸吊り用アイ(オプション)…安定した4点吊りが可能になります。
FOGSガード(オプション)…キャブ前窓の清掃が容易な開閉機構付きフロントガード。

先進テクノロジー

Catのテクノロジーを標準装備!

■ Catグレード[2Dマシンガイダンス/マシンコントロール]

■ Catペイロード[計量機能]

過積載や過少積載の予防に貢献。データはキャブ内のモニターからUSBにダウンロードでき、生産性見える化に役立ちます。

■ Cat E-フェンス[作業範囲制限安全機能]

フロントや旋回による接触や衝突のリスクを低減し、現場で安全に作業ができます。

■ VisionLink® (ビジョンリンク)

車両の位置や状態を把握し適切な機械管理が行え、燃料消費量やアイドル時間分析によるコスト削減が可能に。



キャタピラー製品ページはこちら! >>



キャタピラー
コンストラクション
ジャパンの
Facebookページは
こちら! >>



Team
Caterpillar

サービスの、その先へ。

使命を完遂する覚悟で
未知のトラブルにも臨む。

栄谷

日本キャタピラー
奈良営業所
メカニック

Technician / Kento Sakaedani

賢人

高校でサッカーと剣道に励んだ栄谷賢人は、その戦い方と同様に、守りから入る慎重な性格のメカニック。丁寧な分析が持ち味で、勝負所では大胆なチャレンジも。お客様や同僚から信頼を得て奈良営業所に抜擢され、大型マシンとの対峙に心を躍らせている。

奈良県中・北部エリアのお客様は碎石場などで大型の建設機械が多く稼働しているのが特徴です。赴任して1ヵ月経ち、今まであまり触ったことのないマシンにワクワクしています。部品一つひとつが大きく付け外しが大変で、しかも機械の精密さは変わりません。そのため修理の工程などをあらかじめ学び直す日々を送っています。

メカニックという職を選んだのも、初めて見た建設機械が新鮮に思えてワクワクしたからでした。高校では工業化学科で地元企業への就職を考えていましたが、キャタピラーの岡山営業所を見学し、これほど大きな機械が動くのかと衝撃を受けました。

機械の知識はほとんどなく、工具の名前を覚えるところからのスタート。大阪時代の先輩からの「遅い仕事は誰でもできる。速くて当

たり前」という教えを大切にしています。お客様のもとで仕事をする我々はスピードが重要で、そのためには事前の準備が欠かせません。

私も先輩の立場になり、後輩から学ぶことも多くあります。年齢は関係なく、その日の現場でのことやトラブルシューティングについて話し合ったりして、チームとして意識の共有を心がけています。

お客様とのコミュニケーションでは、不安にさせることは言わず、表情も硬くならないようにしています。時にはお客様と連携しながら、一緒に解決法を考えていくことも大切です。過去の事例で、川に水没した機械を動かすため、上流に仮の堤防をお客様に作っていただいたということもありました。

目指しているのは、誰からも信頼されて、「機械も人もキャタピラーで良かった」と思ってもらえるような人間。この仕事は毎日が新しい発見の連続です。経験したことのないような未知のトラブルに遭遇した時にこそ、「自分たちが絶対に直す」と覚悟を決めて、最後までやり通したいと思っています。



栄谷 賢人 (さかえだに けんと) 岡山県出身。2012年入社。大阪市内の3つの営業所で、ショップメカニックを約半年、フィールドメカニックを11年経験した。2024年12月から奈良営業所で、主に大型機械を担当。

LET'S DO THE WORK.™

キャタピラーファイナンス 特別金利プログラム のご紹介

低金利でお得となる「特別金利プログラム」をご紹介します。ほかにも、月々のお支払いを抑えられるリース料金で機械をご使用いただき、リース期間満了時にそのまま購入いただける「オペレーティングリース」、さらに、ファイナンス契約へ延長保証とメンテナンスを組み合わせ、毎月定額で手間なく大きな安心をお届けする「安心パッケージ」もご用意しています。お客様の資金計画や事業プランのお手伝いをいたしますのでぜひご利用ください。

特別プログラム

低金利でお得!

5年割賦まで金利1.8% (中・大型製品)
 (小型製品は3年割賦まで0.9~1.5%、4年・5年:1.2~1.8%)

油圧ショベル、ホイールローダ、ブルドーザ、ミニ油圧ショベルなどの新車購入に際して特別に低金利プログラムをご利用いただけます。下取りや頭金があればさらに有利な金利のご案内が可能です。ぜひご相談ください。

中・大型製品	油圧ショベル、 ホイールローダ、ブルドーザ、 モータグレーダ など	5年割賦まで	
		金利 1.8%	
小型製品	ミニ油圧ショベル	3年割賦まで	4年・5年割賦
		金利 0.9%	金利 1.2%~1.5%
	小型ホイールローダ、 小型ブルドーザなど	3年割賦まで	4年・5年割賦
		金利 1.5%	金利 1.8%

このほかにも、お客様の現場をサポートする各種ファイナンスプログラムをご用意しています。プログラムのご利用条件など詳細につきましては、販売店の営業担当者、またはキャタピラーファイナンスまでお問い合わせください。

キャタピラー・ファイナンス株式会社

所在地：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1
 OCEAN GATE MINATO MIRAI 12階
 TEL: 045-682-3701 (営業部直通) FAX: 045-682-3795

Webサイトは
 こちらから
 ご覧いただけます。



Good Support Good Work !!



オイルの 重要性

過酷な環境で稼働する建設機械にとって重要な役割を果たすのはオイルです。Cat®の純正オイルはCat製品が使用される過酷な環境向けに特別に設計・テストされており、コンポーネントの摩耗低減、車両の性能と稼働時間の最大化に寄与します。車両の血液となるのがオイルです。純正オイルを使用することで車両の健康状態を最大化、純正フィルタを使用することでオイルの清浄度を保ち、Cat SOSSMオイル分析サービスによってオイルや車両の健康状態を確認することができます。

Catオイル

Cat純正オイルは粘度指数を高く設定しています。これは温度変化に対する粘度の変化が小さいことを意味し、添加剤により調整されています。

粘度指数が高い場合のメリットは以下の2つがあげられます。

- ①高温での粘度低下が小さく、油膜強度を維持できる。
 - ②低温での粘度上昇が小さく、低温始動性が向上する。
- 粘度が高くなりすぎるとギアなどの駆動部に負荷が高くなり燃費にも影響を与えます。また、粘度が低くなりすぎるとエンジン音の増幅や、金属摩耗の促進につながります。



作動油 - Cat HYDO Advanced 10 -

従来型オイルと現在のCatオイルの違いは、ベースオイルです。Cat HYDO Advanced 10で使用されているベースオイルでは硫黄分や金属系物質、炭化水素を減少させています。

Cat HYDO Advanced 10では複数の特徴があります。例えば、特別に調合された添加剤により摩耗面保護層を形成し高圧ピストン等の部品摩耗の低減や、特殊な洗浄分散材により汚染物質のフィルタへの移動をサポートします。

Cat SOSSM オイル分析サービス

Cat SOSSMオイル分析サービスでは元素分析、劣化度分析、汚染度分析などを行います。異常がない場合はそれぞれの数値は各オイル交換時にほぼ同じ値を示しますが、一定の基準または過去の測定値から著しく外れた場合、異常摩耗等が起きている可能性があります。継続してオイルの検査を活用することで潜在的な故障のリスクがあるかどうかをいち早く知ることにつながります。また、VisionLinkからオイル分析の結果を確認することも可能です。





大型特殊自動車免許取得のすすめ



No.126では車両系建設機械で公道を走行する場合、大型特殊自動車免許(以下、大特免許)が必要であること*をお伝えしました。大特免許を持っているとホイールローダなどの車両系建設機械だけでなく、クレーン車、フォークリフト、ロードローラ、除雪車などを公道で走行することができます。今回は技能講習資格を取得する際の大特免許の有効性についてご紹介します。

*車両規格により小型特殊免許以上で運転できる場合あり。

技能講習の種類	一部科目免除コース (大特免許を所持する者)	標準時間コース
車両系建設機械(整地等用)運転技能講習	14時間	38時間
フォークリフト運転技能講習	11時間*	35時間
不整地運搬車運転技能講習	11時間	35時間

*「カタピラ車限定」は除く。

皆 さんがよく目にする運転免許証の“免許の条件等”欄に“AT車に限る”とある、いわゆる「オートマチック車の運転のみに限定」された免許がありますが、大特免許の種類にも、次のように運転できる車両が限定されたものが存在します。大特免許を持っていると技能講習を受講する場合、右図のように一部の科目が免除されるコースで受講することができます。大特免許が技能講習資格を所得する上で有効であることがお分かりかと思えます。

カタピラ車限定

クローラ式車両系建設機械などのみ運転できます。

農耕車限定

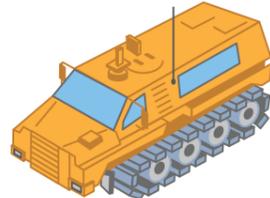
トラクターやコンバインのみ運転できます。



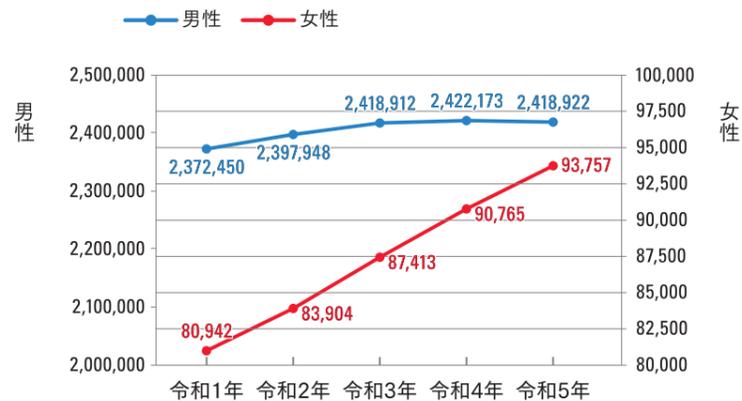
その他として、大特二種免許(旅客運送用)も存在します。運転できる車両は雪上車などが該当します。

*普通以上の二種免許を取得する為に大特二種免許を先に取得される場合もあるようです。

かつては大特二種免許を持っていても、上図の技能講習の一部科目免除コースの受講資格には該当しませんでした。しかし、法改正により平成30年8月13日から受講が可能になっています。



大型特殊自動車一種免許所有者数の推移



左図より男性の大特免許所有者数は令和1年から4年間で増加しており、女性の所有者については年々男性を上回る増加率で推移しています。これは大型特殊車両を使用する作業現場への女性進出が増えていることが一因ではないかと考えられます。

出典: 運転免許統計 令和5年版
(警察庁交通局運転免許課資料より)

キャタピラー教習所では、今回ご紹介した車両系建設機械等の運転資格を取得できます。もちろん、大特免許を取得されていれば一部免除コースでの受講も可能です。講習では、安全に作業する上で必要なことを学科と実技を通じて学ぶことができます。



詳しくは、お近くのキャタピラー教習所までお問い合わせください。

技能講習・安全教育のご用命はこちらまで
キャタピラー教習所株式会社

本社: 〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮7-11-1
TEL 0467-73-1221 FAX 0467-73-1211
ホームページアドレス <http://cot.jpncat.com>

詳細は
🔍 キャタピラー教習所

100周年 SPECIAL PRESENT

日頃のご愛顧に感謝を込めて、100周年特別プレゼントをご用意しました。皆様のご応募をお待ちしています。

“CATERPILLAR” TWENTY TRACTOR 100周年記念 限定モデル



1名様



100周年ロゴ入り CAP 10名様



Cat 745 アーティキュレート ダンプトラック 3名様



Cat ワークウェイバア 5名様



「CAT CLUB No.127」のご意見、ご感想をお寄せください。抽選でCatグッズをプレゼントいたします。

応募要領

必要事項を記載いただき、右記メールアドレス宛にご応募ください。
■ お名前 ■ ご住所 ■ 連絡先のお電話番号 ■ 会社名
■ ご希望のプレゼント ■ 「CAT CLUB」へのご意見・ご感想

〈応募締切〉
2025年6月6日(金)
〈応募先アドレス〉
cat-club-japan@cat.com



ご当選者には、セールスマンが賞品を直接お届けいたします。お届けの賞品が見本と異なる場合がございます。当選結果に関するお問い合わせ等にはお答えできませんのであらかじめご了承ください。

ご提供いただきました個人情報は、当社の個人情報保護方針に基づき、今後の商品開発・販売促進などに利用させていただきます。当社の個人情報保護方針は、当社ホームページからご覧いただけます。
<https://www.caterpillar.com/ja/legal-notices/dataprivacy.html>

LINEスタンプ販売中!
キャタピラー・ジャパンLINE公式アカウント

スタンプ詳細はこちら >>>



友だち募集中
[ID] @caterpillar

CAT[®]

LET'S DO THE WORK.[™]

はたすコトが、変りコトになる。



あなたと共に、明日の世界をつくる。

キャタピラー

http://www.cat.com/ja_JP/

CAT CLUB 編集部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL.045-682-3424

CAT CLUB メールアドレス

cat-club-japan@cat.com

CAT CLUB
デジタル版も
好評配信中!



©2025 Caterpillar. All Rights Reserved. CAT, CATERPILLAR, LET'S DO THE WORK, それらの各ロゴ、"Caterpillar Corporate Yellow"、"Power Edge"、およびCat "Modern Hex" のトレードドレスは、本書に記載されている企業および製品の識別情報と同様に、Caterpillar社の商標であり、許可なく使用することはできません。記述の内容と仕様は、予告なしに変更されることがあります。写真には、海外仕様の製品およびオプション装備品が含まれていることがあり、国内仕様と異なる場合があります。

用紙にはFSC[®]認証材、再生資源、およびその他の管理原材料から作られたFSC[®]認証用紙を使用しています。

